

青年部 .. 活動を再開

落語を聴く会の開催

2009年10月30日 リーダースサロンなみへい 参加人数・34名



三遊亭 楽市 (さんゆうていらくいち)

昭和45年9月2日生まれ、岐阜市出身
六代目三遊亭(田楽門下)
芸歴：平成12年入門

平成16年ニッ目昇進

平成20年さがみはら若手落語家選手権

協賛者特別賞受賞

現 在 真打に向かって日夜修行中
信条：笑いで岐阜を活性化したい。

楽市を聴いて

時は秋の深まりゆく10月30日(金)の夜。場所は、JR神

田駅西口近くのビルの1階のお店。

まるで隠れ家のようなサロンに、高座を設け、県人会青年部や元青年部の人達が待ち受ける。

そこに紫の衣装で登場したのは、三遊亭楽市。楽市はその名のとおりに戦国時代に信長が岐阜で始めたという「楽市楽座」から採った芸名だそう。もちろん岐阜市出身の正真正銘の岐阜県人。

人気のお笑い番組「笑点」のレギュラー三遊亭楽太郎(現六代目田楽)の弟子で、現在真打手前のニッ目の話が始まると、「笑点」の舞台裏のお話しに。お茶の間のテレビでは、司会の歌丸が問題を出すと、落語家たちが素早く手を挙げるのだが、実は、テレビでは答えるまでの「間」を一部カットしてつないでいるそう。

この前日には楽太郎の師匠で、闘病中であった五代目三遊亭田楽が、肺癌で亡くなった。楽市は「田楽師匠が星になっちゃいました。しし座とおとめ座の間に輝く馬座に」と。笑いをとりながら、ほろりとさせるあたり、真打になる日も遠くないかもしれない。

ラピロス六本木の閉鎖に伴い、長い間活動を中止していましたが青年部が新たな体制を整え、活動を再開しました。

この日は新聞2社の取材中もあり、カメラを向ける記者に楽市は、「そのまま書かないでくださいね。」と。でも天国に昇った田楽師匠も、きつと許してくださいませことでしょう。

話は終盤に入り、謎かけがはじめた。「何々とかけて何々とく。その心は」。これを会場の観客とのコラボで行う。

ニッ目は、私が出した「県人会青年部」とかけて。楽市は、「石川遼の打球」とく。と。その心は「くんべん上昇して」。最後に、会場から、「岐阜県」と

かけて、との声。楽市は、少し間を置いて、「岐阜県とかけて、ホルモン焼きとく」と。「その心は、ミノもヒタもあります。」

場内歓声に包まれて、落語家の舞台はおしまいとなっていった。

約1年間、活動を中止していた県人会青年部。若い青年部の人達の汗とネットワークとで、この夜活動再開を果たしたのであった。

なかなか質の高い、心に残るイベントで、私にとっても、秋の一夜の忘れ難き思い出となった。

文責：堀江誠

県人会親睦ゴルフコンペへの参加

2009年11月27日 大栄カントリー倶楽部 参加人数：(青年部から)6名

「県人会ゴルフコンペ」に青年部も参加!

皆さんに迷惑をかけない程度に頑張りましたが、スコアはとても及ばず、なのにたくさんお土産を頂いてしまいました。文責：中野稔也

青年部入会希望者は <http://www.apgifu.net/>